

支部長賞

ぼくにできること

鹿児島市立西紫原小学校
一年 小牟禮 蓮

一月一日、大きなじしんがありました。いま、ぼくにできることはなんだろうとかんがえて、おかあさんといっしょにぼ金にいきましました。一人でもたくさんの人がすくわれるといいなとぼくは、おもいました。

命を育てる

鹿児島市立西紫原小学校
三年 鈴木 陸斗

学校に落ちていた葉のうらにチョウの幼虫を見つけた。大切に持ち帰って育て、羽化した。何度もぼくの上をぐるぐるととんで、さようならと言った。さで行った。さみしかったけど、大切な命を育てたことがうれしかった。

募金から響く音

鹿児島市立名山小学校
六年 徳田 妃

募金活動に参加した。私たちの呼びかけにたくさん思いやりの心が集まる。誰かを思って入れられた硬貨の音は澄んでいて、私まであたたかい気持ちになる。やさしい心が広がり笑顔あふれる世界が実現しますように。

ごみ拾い

鹿児島市立郡山中学校
一年 馬庭 大地

僕の入っているクラブチームでは、試合後にごみ拾いをする。それを見た他のチームもごみ拾いをした。いつもはめんどくさいことが誇りに思えた。帰りはごみのないきれいな道を通った。試合後なのに、足はすぐく軽かった。

誰かの為の配慮

鹿児島情報高等学校
三年 有元 皓夏

私の右耳は聞こえなく左耳の聴力も低下している。そんな私も普通の生活をしている。なぜなら、私の耳のことを理解し、さり気なく配慮してくれる人達がいるからだ。私も誰かの為にさり気なく配慮できる人になりたい。